



## 二十歳の皆さんに贈る言葉

熱海市長 齊藤 栄

今年もまたMOA美術館能楽堂で「二十歳の集い」が開催されました。私も市長になって20年目となり、20年と言う時間を共に過ごしてきたことに思いをはせて、二つのメッセージを贈りました。

一つ目は「社会は自分達の力で変えられる」ということです。私は二十歳の時に大学三年生の夏休みを使い、海外研修で東欧の旧チェコスロバキアに行きました。当時は社会主義国で国民の自由は大きく制限されていました。その11年後に、民主化や分離独立を経たスロバキアを目の当たりにし、社会は変えることができるのだと強く思うようになりました。

二つ目は「どんなことでも10年やり続ければ実現する」ということです。私が市長に就任した当時、熱海市の財政赤字は過去最大、宿泊客数は過去最低という状況でした。しかし、市民をはじめとする多くの方々の協力を得て、厳しい行財政改革によって赤字を10年で解消し、「意外と熱海」プロモーションなどを仕掛けて、約10年で熱海のイメージを若者にも人気の温泉地に変えることができました。また、現在活躍中のゴルフの渡邊彩香プロや大相撲の熱海富士関も、「自分は将来プロになる」と目標を立ててから、その舞台に立つまでに約10年を費やしています。

二十歳を迎えた皆さんにはこれから未来をつくる時間があります。努力を重ね、人生の主人公として夢や目標を実現していただくさい。「未来をつくるのはあなた」です。



## 新たな観光基本計画

熱海市長 齊藤 栄

熱海市は今、新たな観光基本計画を策定中です。観光基本計画は、観光振興の大きな方針を中長期的な視点で定めるものです。最初の基本計画が2007年に策定され、今回が三度目です。2030年を目標とした今回の計画は、これまでとは一線を画したものとなる見込みです。

まず、目指すべき方向として「温泉リゾート熱海」を掲げました。これまで熱海市は「温泉観光地」という言葉を使ってきましたが、これからはより質の高い、世界に通用する一流リゾートを目指そうとするものです。これは簡単なことではなく、時間もかかります。景観も含めたさまざまなインフラ整備をはじめ、提供するサービスのレベルも上げていかなければなりません。昨年スタートさせた宿泊税や熱海観光局を活用しながら、まずはその基礎を作っていきたいと考えています。

また、「観光と市民生活との調和」を重点テーマの一つとしました。これは、渋滞対策などのいわゆるオーバーツーリズムを防ぐといったことにとどまりません。観光振興による恩恵を市民の皆様が実感できるようにすることで、市民満足度が向上し、ひいては市民一人ひとりが自らのまち熱海に対する誇りを持つようになることを目指しています。

難易度が非常に高い計画ではありますが、計画が策定された後、新年度からその実現に向け、オール熱海で力を合わせて取り組んでまいります。



令和8年度がスタートしました！

熱海市長 齊藤 栄

令和8年度がスタートしました。今年度もいくつか大きなテーマがあります。

一つ目は、伊豆山被災地域の復旧・復興です。今年の7月で土石流の発災から5年となり、復旧・復興事業は大きな節目を迎えます。既に消防団第4分団詰所と伊豆山コミュニティ防災センターは、3月末までにその工事が完成しています。一方、これまで進めてきた道路の整備事業については、用地の取得が一部未了の箇所があるため、暫定的な完成を目指します。このことが、現在伊豆山地区で生活されている皆様の利便性の向上や、避難生活をされている方々の帰還につながることを期待しています。

二つ目は、熱海観光局の本格稼働です。昨年始動した熱海観光局は、今後「温泉リゾート熱海」の実現に向け、一步一步その基礎を作っていきます。具体的には、新年度はユニバーサルリズムや夜の賑わい創出などに取り組み、併せて「市民向けプレミアム宿泊券」などの市民の皆様に観光振興の恩恵を感じてもらえる施策も進めていきます。

三つ目は、高齢者福祉の充実です。外出や交流を促し、同時に介護予防やフレイル予防につながる取り組みとして、健康増進教室への参加や社会貢献の活動などでポイントがたまる「いきいきポイント事業」、毎月特定の日市内の路線バスが全区間無料乗り放題となる「いきいき外出支援事業」を始めます。

以上のとおり、新年度は、伊豆山の復旧・復興、地域経済の更なる活性化、市民福祉の向上に力を入れてまいります。



## につぼん丸の引退

熱海市長 齊藤 栄

につぼん丸は全長166メートル、総トン数2万2千トンのクルーズ船で、35年間の現役引退を前に、去る3月26日に最後の熱海寄港がありました。当日は船内のラウンジにおいて、船長に感謝状や記念品を贈るなどのセレモニーが行われました。

につぼん丸はこれまでに17回熱海に寄港していますが、2007年12月に初めて寄港した時のことを今でもはっきりと覚えています。当日は悪天候で海が荒れ、着岸が危ぶまれたのですが、その時間になると波がやみ、太陽も現れ、無事着岸ができました。につぼん丸の姿はとても大きく、熱海の街をバックに映える「真っ白な優美な姿」に本当に感動しました。当時、私の市長就任2年目に当たり、「財政危機宣言」と過去最低水準の宿泊客数という厳しい状況の中で、につぼん丸の初寄港は数少ない明るい話題でした。

私は大型の客船に対して旅情やロマンを感じます。につぼん丸は沖に停泊して、明かりを消して海上花火大会を観賞するのですが、花火大会終了とともに明かりを一斉に点灯するさまは洋上でシャンデリアが輝くようでした。そして港を去る際の「ボーツ」と鳴らされる汽笛は、につぼん丸が「ありがとう」と言っているように感じていました。

そのにつぼん丸がこの5月に横浜港帰着を最後に引退します。これまでのことを思い返すと本当に名残惜しく、につぼん丸に心から「ありがとう」と言いたいです。長い間本当にお疲れさまでした。